

NPO 法人

第45号

芦安ファンクラブ通信

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ

事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2553

URL <http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/> Email afc3193@nus.ne.jp

第2回南アルプス市「芦安新緑・やまぶき祭」を終えて

昨年から始められた「新緑・やまぶき祭」が5月13日(日)に芦安地域の芦安小学校校庭で行われた。好天にも恵まれ、昨年より大勢の約1000人ほどの参加者が祭を盛り上げてくれた。



今回の祭の特徴は三つほどあげられる。

一つは社協で運営している地区い・ちっくい祭 in 芦安実行委員会との共催である。小さな地域で同じようなイベントを実施しても関わる人は毎回同じであり、個人への負担は重なることになり、結果的に祭を楽しむことには程遠いことになるとの意見から2組織のコラボが実現し、参加者が増えた大きな要因になった。

二つ目は運営主体を地域活性化の為に活動しているボランティア組織「芦安の将来を考える会」(以後、かたくりの会という)を中心に実施したこと。前回までは実行委員会には地区の区長及び組長が入って祭の会議に関わっていたが、役員が年度で切り替わるために連携がスムーズに行われにくい課題があった。そのために今回から地域の活動組織で祭の主催を担当することに移行した。まだまだその組織は小規模で芦安ファンクラブをはじめとする多くの団体の支援をお願いすることになるが、地域の活性化の

為に汗をかいている熱意をくみ取っていただき、今後とも育成の視線で温かく見守っていただきたい。

三つ目は芦安の歴史文化の掘起こしとしてチャレンジイベント「ミス・虎御前」コンテストである。この企画は、かたくりの会の定例会から起案されたもので、大変ユニークなものだと思い、様々な苦勞を覚悟でこのミスコンを実施した。「虎御前」の歴史を次世代に定着させる必要と、広範囲からの応募者を期待して準備は進められた。衣装の時代考証から審査及び選考方法など、試行錯誤で進められた。大勢応募するだろうか、とか、ひょっとしてコンテストが成立するだろうか、など、担当者はひやひやものだった。結果的には広報などで紹介されたように第一回ミス虎御前の栄誉は清水さんのものとなった。当日は南アルプス市文化財課学芸員さんが、「虎御前」と芦安とのつながりをわかりやすく説明して下さった。

音楽は二つのグループにお願いすることができた。フォルクローレの演奏は「ソローチェ」の皆さんが芦安の景観にマッチした音色を聞かせてくれた。終盤には演歌をアレンジした楽しい曲も聞くことができ楽しかった。ステールパンの演奏は「珠 with tropicarib」の皆さんが柔らかく心地よい響きと雰囲気でも場内を包んでくれた。演奏が終わっても会場で一緒に楽しんでくれた姿はとてもほほえましく、珠さんの人柄が感じられた。



恒例になったオープニングの夜叉神太鼓演奏は保存会と中学生のコラボ、中学生の司会の頑張り、小学生のパフォーマンス、華やかなフォークダンス、バナナのたたき売りもあった。出店に駆けつけてくれた富士川砂防事務所、地元環境省南アルプス自然保護官事務所の皆さんには祭の中で学ぶコーナーを企画していただいた。



ちっくい祭の関係の出店には他地域から多くの支援者が様々な企画を展開して、高齢者や子供を楽しませていた。芦安らしい「うすやき」の販売も大変好評だった。白露巨摩野社社の皆さんからは選んだ多くの俳句が素晴らしく、ぜひ賞品を増やしてくれとせがまれて急きょ対応した一幕もあり、芦安の自然の中での作品が近い将来には俳句集になるかも知れない喜びも感じた。



虎御前にちなんだ今回の芦安地域「史跡めぐりツアー」は行きたいけど場所がよくわからないといった人たちに大変人気があり、史跡ガイドも大わらわだった。

出店には山菜、天ぷら、つきたて餅、手打ちそば、やきそば、フランクフルト、夜叉神笹味噌カレー、炊込みごはん、スイーツ類などレパートリーに富んだメニューが並んだがどちらも早めの完売だったようで、別の意味で腹の虫をおさめることができない人もいたようだった。今回は芦安のもう一つの名物「甲斐犬コーナー」も設置し、甲斐犬愛犬家にもご苦勞をいただいた。



祭の象徴として御勅使川に泳がせているこいのぼりの設置から祭の準備、当日の様々な運営に至るまで大変な協力をいただいた NPO 法人芦安ファンクラブの皆さんには、いつもながら頭が下がり、遠くからいつまでファンクラブが…との声が聞こえてきそうな気がしますが、地域力の養成に比例してご苦勞も減っていくと思いますので今後も寛大な支援の継続を願いたい。

「イベントはそれが盛会裏に終了することが成功ではなく、その後何を残し、何につないでかが評価に値する」と講習会で教わったが、先日の実行委員会では多くの反省と課題が示され、格言に対し胸を張れる要素は見当たらないが、多くの関係者から「祭でひとつになれたような気がした」「ほんとの意味での地域祭らしかった」などの言葉を聞くと、やはりそれだけで欠につながるような気がして祭を終えることができる。多くの関係者の協力に改めて感謝を表したい。



南アルプス市「芦安新緑・やまぶき祭」実行委員会
事務局 清水准一・清水秀美

芦安新緑・やまぶき祭スタッフ

やまぶきツアー参加者の声



とても良かったです。虎御前の話が面白く、鏡立石が印象に残りました。何よりもガイドさんの説明が分かりやすく面白くてたいへん勉強になりました。

(百々よりお越しの中沢様と元同僚のみなさん)

初めて来ましたが、新緑がとても美しいですね。聞くだけでなく、実際にめぐってみるとよく分かります。芦安は歴史にあらわれない隠れた町という印象です。

(甲斐市よりお越しの池田様ご夫妻)



お祭りに来て下さったみなさん



竹細工を子供がとても楽しんで
います。演奏を聴きながら俳句を
作るのもいいですね。



孫が芦安小にいるので楽しみで
毎年来ています。柿の葉の天ぷら
が美味しかったです。



ミスコンテストがあると聞いて
きました。みんな美しいばかり
で結果が楽しみです。



芦中卒業生です。芦安地区はみ
んなが顔見知りで安心できると
ころがイイです。



甲斐犬が天然記念物だと知って
驚きました。新緑がとてもきれ
いでさわやかです。



友達に誘われて来ました。地域
のみんなで作っているという温
かい感じがしました。

今年もたくさんの方々に楽しんでいただけたようです。

みなさん、素敵な笑顔を見
せていただきました。芦安ファン
クラブのクライミングコーナー
にも、子供たちの大行列ができて
いました。



「ミス虎御前」決定！



今年が目玉、ミス虎御前コンテストの優勝者は、芦安中事務の清水梨恵さん。「芦安のみなさんはとても優しく大好きです。これからも芦安のために頑張ります。」と、とびっきりの笑顔で語ってくれました。惜しくも優勝を逃した4人の候補者もいずれも美女ばかりでした。



第29回登山教室～シャクナゲで彩る百名山～

芦安ファンクラブ 井口 功

シャクナゲが咲き誇る瑞牆山、伝説と瑞牆の展望台・魔子の山に登る。今回の登山教室は、南アルプス市を離れ、私の住んでいる北杜市の山で、6月9日、10日に実施した。折から甲信地方が梅雨入りし、雨が心配であった。

魔子の山。9日12時40分。瑞牆山荘を出発、車道を5分程で登山口、整備された登山道となる。周りの木々の緑が美しい。そこに三つ葉ツツジがピンクの花を鮮やかに咲かせていた。一汗かく頃、魔子の山に着いた。ここから瑞牆山の展望を楽しみにしていたのに生憎のガスであった。途中登山道の左から蝦夷春蝉の大合唱が聞こえてきたが、右側からは聞こえず不思議であった。魔子の人穴へは、尾根づたいで一段と悪路になった。伝説の穴を見て、すぐ上の展望台に登ったが、相変わらずガスが立ちこめ何も見えなかった。

暫くで路は右に折れ下りになった。釜瀬川林道までの間はとても気分の良い路で何度通っても気分良く下れる。路には何度か分岐があるが、標識の行き先はどちらも釜瀬川林道となっていて、どの路を下っても林道に行き着くことを示していた。林道から少し上り気味の路を20分程で、15時10分に瑞牆山荘に着いた。夕食が17時30分かなので16時から講義を始めることにしてまず風呂で汗を流した。30分程で全員揃い、早めに講義を始めた。講師は渡辺さんで、「瑞牆山・魔子の山」などの話を楽しく聞くことができた。早めに始めたので、余った時間に私が「地図の楽しみ」(雨の時にと話を用意していた)を色々な地図を見ながら話し、夕食の知らせまで熱心に聞いていただいた。19時頃食事を終えた後は、スタッフの部屋で20時30分まで懇親会をして就寝した。

瑞牆山。10日6時30分。ジャンボタクシーに全員乗って出発。林道の分岐まで入ってくれ、30分歩かず済んだ。天気は曇りで所々に青空が見えた。未舗装の林道を暫く歩き、登山道に着いた。ここには1台の車が停まっていた。登山道は不動沢を右に高く巻きながら登っていった。小さな尾根を越えると、右手の大岩にフリークライミングのルートがあり、度々取り付いているクライマーに会っていたが、今朝は誰もいなかった。不動沢の向こう側には100m程の大岩壁が見えた。暫くでまた右手に大岩があり、下部が大きくハングしており、その奥に暗い穴が見られた。原全教によると、この岩窟をネイノジョウ(瑞牆風穴)と呼んでいて、奥は相当深い?(まだ覗いたことが無い)。昔、伐採に入った人達がこの岩の凹みを利用し露

営したとのことだった。この先で不動沢の流れを繰り返し渡ると不動の滝に着いた。この滝は小川山から信州峠の途中にある大双里から流れ出した沢の末端で飛沫をあげて30mの高さを滑り落ちている。路はシシクイ坂と呼ばれる箇所になり急登になったが、ゆっくり進んでいるので誰も音を上げなかった。矢立石、摩天岩、弁天岩などの看板に辺りの岩を確認しながら、10時過ぎに富士見平からの道に合流した。ここからは大渋滞の始まりで、10分程の山頂には人が溢れていた。10時15分山頂到着、折からガスが立ち込めて何も見えなかった。居場所を確保し、昼食をとり、記念写真を撮り、早々に山頂を後にした。山はシャクナゲの花が咲き誇り、これを目当ての登山者が山に溢れている状態だ。下山を通常の富士見平へ下る路にしたが、次から次と登ってくる人達との待ち合わせに、後ろのグループが苛立ち文句を言っていた。それでも私達のグループは早くに登ってきたので、ゆっくり落ち着いて下ることができた。途中の大ヤスリ岩にはクライマーが取り付いて頭に登りついたのが途中から見られた。天鳥沢に12時15分に着き、この頃から登山者が途絶え、気分的にゆったりできた。富士見平小屋の前でもゆっくりと休み、途中の里宮神社に寄り、瑞牆山荘に13時45分に無事下山した。恒例の登山教室の儀式を済ませ、14時頃解散した。雨を心配していたが、2日間とも降られずに済み、良かったと思っている。

この日のこちら側からの登山者は500名を越している(不動沢コースは20名足らずで、こちらに下ったのは我々のみ)、駐車場は満車、取り付け道路は両側に車が並び、林道にも車を停めている状態であった。なお、先週の土曜日は1000名を越える登山者が押しかけたと瑞牆山荘さんが話していたが、人気の高い瑞牆山ならではの戸惑いを感じた。



編集委員清水の

登山教室レポ “参加いただいたみなさんの顔(〇)”

鶴岡朋之さん（横浜市から）

ご夫婦での参加ながらも、出来るだけ別々に行動する鶴岡夫妻。決して仲が悪いわけではなく、その分他の参加者と多く接するためと。気配りの人。登山教室へはインターネットでファンクラブのHPを見たことがきっかけ。大晴天の北岳に登って大満足。御池小屋で体験した餅つきが忘れられないと語る。ベースは丹沢山だけれど標高が低いので夏は暑くてかなわないとボヤキながらも、表情はとても幸せそう。



鶴岡信子さん（横浜市から）

冷やかし半分に質問してみたが、山男山女の結婚ではない由。10年くらい前からよく2人で山歩きをするようになったと聞いた。「登山中のケンカはご法度」と言うが、あくまで優しい夫と爽やかなスポーツウーマンの妻、友達同士のような2人の会話を耳にすると、「これはケンカになりそうもないな」とひそかに思う。ほほえましい夫婦登山、ぜひ参考にしたいネ…。夕食時はもちろんビールを仲良く分けて飲む2人。観音菩薩の伝説のある不動滝にさりげなく手を合わせる姿が印象的。

藤田京子さん（横浜市から）

いわずと知れた、登山教室第一期生。ほとんど毎回登山教室に参加してくれるだけでなく、夜叉神峠西口登山道整備にも出て頂いている。きっかけは朝日新聞を見て。甲斐駒にあこがれて栗沢山に登った。高校時代はワンゲル部に所属していたとか。瑞牆山は初めてというが、いいペースで登って下ってたくましい！気象に関心があり、地図が大好きな女性。以前は芦安ファンクラブの登山のみだったが、少し前から土日に近くの箱根山、鎌倉を庭のように歩いているとのこと。夕食時には赤ワイン。



小林圭一さん（所沢市から）

元同じ会社の三好さんとコンビでよく山歩きをするとか。3年くらい前に芦安ファンクラブの「百花繚乱」に参加し、大感激してから登山教室に何度も参加して下さっている。時には1人で山歩きをすると言う。道迷いの用心に、常に30分の体力と気力を残しながら歩いているとのこと。かなり冷静な態度に感心させられる。大勢で歩くときはいつも最後尾が好きだと語る。夕食時にはお湯割りをうまそうに飲む。（だいり強そう??）

三好 晃さん (東久留米市から)

今回の参加者の中での最高齢者。会社の山岳部員として初めての登山が浅間山。なんと50年前！歴史を感じさせる。現在は週一回のペースで近くへ日帰り登山と、登山中毒気味の様子。小林さんと同じくカメラが趣味で、重い一眼レフで盛んに撮影。九輪草にシャッター！自分で作った 1/9000 の拡大地図を下準備してきてマメにチェック。模範的な登山者！夕食時には上品に白ワイン。よく似合っていた。



高安博喜さん (八王子市から)

南アルプス市のフルーツフェスティバルで芦安ファンクラブがガイドした夜叉神峠ツアーに参加し、白根三山を目の当たりにしてから山登りに取りつかれたとか。芦安ファンクラブの登山教室は「百花繚乱」(大変評判がいいネ)が初めて。天気も良く最高に感激し、今回は2回目。一番若い参加者で、最近になってからの登山歴だが、頻りに1人登山をしている様子。仙丈ヶ岳、赤岳も登り、瑞牆山も今回は2回目。高尾山はお庭のようなものだと語る。研究熱心で、常に地図を確認、メモをしながら歩く。頭が下がる。夕食時には生ビールをジョッキでぐいぐい。



魔子じい伝説の残る魔子の人穴



瑞牆山山頂にて。眺望はなかったが皆さん笑顔。



山荘にて「瑞牆山・魔子の山」の講座



夕食時はお酒も加わって話が弾む

あいにくの曇り空だったが、満開のシャクナゲが参加者の顔をほころばせた。登山中も会話が弾み、参加者同士の交流もこの登山教室の楽しみの一つだと確信した。
編集委員 清水毅

南アルプス芦安山岳館 平成24年度企画展

「南アルプス 登山史を探る」開催!

「人はなぜ山に登るのか」そんな壮大なテーマに挑んだ平成24年度の企画展、「南アルプス 登山史を探る」が6月15日にオープニングをむかえました。みなさん、私達が生まれるはるか昔、縄文時代に人々が山へ登っていたことをご存知でしょうか。平安時代から今でも脈々と続く修行としての登山。誰よりも早く、誰よりも高くと競い合った大正・昭和の時代。そして山ガールが席卷する現代。私達の祖先はなぜ山に登ったのか。そして私達はなぜ山に登るのか…。そんなことをじっくりと考えてみませんか。南アルプス芦安山岳館へ、ぜひ足をお運びください。

平成24年6月15日(金)、南アルプス芦安山岳館において、平成24年度企画展「南アルプス 登山史を探る」のオープニングセレモニーが行われました。当日は、南アルプス市中込博文市長をはじめ、約80名のご来賓、関係者の皆様においでいただきました。



展示室に向かうとまずはじめに横幅6メートルの白峰三山の雄大な写真が目に入ります。北岳・間ノ岳・農鳥岳の写真をしっかり鑑賞したのち、展示室に入ると、南アルプスの山々を舞台とした登山の歴史を縄文時代から現代にわたって紹介しています。また、地蔵岳で発見された懸仏や、日本近代登山の父ウオルター・ウエンストン氏の原書などの貴重な展示品を、素晴らしい写真とともにご覧になることができます。縄文時代から、現代まで。様々な時代背景の中で人々はどのように山と関わってきたのか、そして、これからの私達は

どのように山と関わっていくのか、ぜひこの機会にじっくりと考えてみてはいかがでしょうか。(中込)



主催者あいさつ

南アルプスには、本邦第2の高峰である北岳と、赤石岳を南北の盟主とし、甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山、間ノ岳、農鳥岳、仙丈ヶ岳、塩見岳、荒川三山、聖岳、光岳らの標高3000m級の山々が連なっています。その大きな山容に生まれる、清冽な水が、いたるところに見事な溪谷美を形成し、キタダケソウ等の貴重で美しい高山植物が咲き誇っています。さらに、ライチョウやニホンカモシカ等の野生動物たちが遊び、豊で多様性に富んだ生態系が形づくられています。

山々がもつ様々な資源は、人間がこの世に生まれ生活してゆく上で、欠かすことの出来ない水、食料、燃料、建設資材等の恵を与えてくれると共に、自然が織りなす様々な景観が、豊かな精神活動の舞台を提供してくれます。山々の偉大な力に神の存在を意識し、山岳信仰が生まれ、明治時代にもたらされた近代登山では、冒険、自然科学の研究、文学、写真等の文化活動が加わり、現在の登山がなされています。

このような中で、私達人間は、山に対して、どんな考えを持ち、何を感じ、どんな暮らしをしてきたのかを縄文時代から現在に至るまで、南アルプスを中心に、登山の歴史を切り口に探り、未来に向けた南アルプスの理想的な姿を、共に考えてゆきたいと思います。(館長塩沢)



開催期間

平成24年6月15日(金)～平成25年5月31日(金)
 開館 9時～17時(水曜・年末年始休館 夏期は開館)
 入場料 大人¥200 小人¥100

登山教室に参加しませんか??

NPO 法人芦安ファンクラブでは、山々の素晴らしさをたくさんの方に知っていただくこと、毎年登山教室を企画しています。登山を始めたいけれど安全な登り方が分からない、もっと高い山に登ってみたいけれど一人では不安…、そんな皆さん！ぜひ、登山教室に参加してみませんか？芦安ファンクラブのベテランガイドが皆さんを丁寧にサポートしますので、ご安心下さい。

また1泊2日の行程で行なわれますので、小屋ではガイドによる様々な学習会も企画されています。さらに参加者同士の夜の語りも楽しみのひとつです♪きっと、今までにない楽しい経験ができること間違いなしです。今年度の登山教室は残り2回となっています。多くの皆様と自然の素晴らしさを共有できることを楽しみにしています。

回数	開催日/集合時間	目的地 / コース説明	集合場所/登山口	難易度
	参加費		宿泊	特殊な装備
第30回	7月18日(水)19日(木) 集合 午前5時00分	百花繚乱 お花畑にご案内します ・・・北岳・・・	芦安山岳館/広河原	中級者向き 体力必要 標高 1,700mの高度差
	19,000円	北岳 大樺沢右俣コース	北岳肩の小屋	
第31回	10月6日(土)7日(日) 集合 午後1時00分	国民文化祭・やまなし2013「富士の国 やまなし国文祭」リハーサル大会	芦安山岳館/北沢峠	中級者向き
	19,000円	Aコース 栗沢山 Bコース 仙丈ヶ岳	大平山荘	

※ 詳細・問い合わせ先

芦安ファンクラブホームページ <http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/>

南アルプス芦安山岳館 055-288-2125

芦安ファンクラブ新入会員紹介

中込 景子

「山なんて、なぜわざわざ登る必要があるの!？」
つい3年前までは、山に登る人は自分とは違う人種だと思っていた。「山行」は「やまぎょう」と読み、きつと山で修行する人達なのだろうと信じ込んでいました。

初めて無理やり連れて行かれたのが、仙丈ヶ岳でした。どうしても断れずに行く事になってしまったのですが、イヤでイヤで食事も喉を通らないほどになりました。

初めての山。3,033mもある山。そこが私の転換点となる山となりました。樹林帯を抜け、山頂にたどり着いたとき、それまで立ち込めていたガスがずっと晴れていきました。眼下に広がる山々の造形美が私の何かを一瞬にして変えてしまったようです。以来、その魅力にとりつかれ、あちこちの山を歩くようになりました。

山にのめり込んでから3年と少し。私の欲望は尽きることなく、テント泊、長期縦走、冬山、ロックへと今でも広がっています。今回芦安ファンクラブへ入会させていただいたことで、自分の幅をさらに広げるとともに、私の生活を充実させてくれた山々に感謝の気持ちを込めて、恩返しをしたいと思います。今後は、ボランティア活動をはじめ、芦安地区と南アルプスのために、たくさんの活動に協力させていただきたいと思っています。よろしくお願ひします。



今回より編集委員が変わりました。より良いファンクラブ通信にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

* ファンクラブ通信編集委員 * 清水 毅 ・ 渡辺 典美 ・ 堀内 訓 ・ 中込 景子